

# 令和4年度 事業報告（案）

自 令和4年4月1日

至 令和5年3月31日

一般財団法人 MOA健康科学センター



# I 法人の概況

## 1. 役員に関する事項

### 役員一覧

(令和5年3月31日現在)

役職	氏名	勤務先/役職
理事長	鈴木 清志	一般財団法人MOA健康科学センター 理事長
専務理事	八木澤幸生	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局長
常務理事	片村 宏	医療法人財団玉川会 理事長
理事	渡瀬 信之	東海大学 名誉教授
〃	陽 捷行	北里大学 名誉教授
〃	松尾 汎	医療法人松尾クリニック 理事長
〃	宇田川和也	宇田川和也法律事務所 所長
〃	佐久間哲也	医療法人財団玉川会 理事
〃	立川 豊吏	医療法人財団愛和会 理事長
〃	中島 宏平	一般社団法人MOAインターナショナル 理事長
〃	有馬佐和子	医療法人財団玉川会MOA新高輪クリニック 看護師長
業務執行理事	木村 友昭	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
〃	内田 誠也	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
監事	岡崎 譲治	株式会社エム・オー・エー商事 財務統括本部本部長
〃	石原 義之	東方之光 理事

計15名 (理事/13名 監事/2名)

## 2. 評議員に関する事項

### 評議員一覧

(令和5年3月31日現在)

氏名	勤務先／役職
長南 征二	東北大学 名誉教授
蝦名 玄大	医療法人財団瑞泉会 理事
柴 維彦	医療法人財団玉川会 理事
横山 茂弘	東方之光 理事
水野 昌司	公益財団法人農業・環境・健康研究所 常務理事
小菅 豊弘	株式会社エム・オー・エー商事 取締役
大門 一樹	東方之光国際委員会 事務局長
笹岡 勝利	一般社団法人MOAインターナショナル MOA TOKYO 地区長

計8名

### 3. 顧問に関する事項

#### 顧問一覧

(令和5年3月31日現在)

役職名	氏名	職業等
顧問	菅野 久信	産業医科大学 名誉教授
同	チャクリット・プーミサワット	元タイ国衛生省事務次官室監査委員会 監査官
同	牧 美輝	医療法人財団光輪会 理事長

計3名

### 4. 事務局員に関する事項

#### 事務局員一覧

(令和5年3月31日現在)

事務局長	八木澤幸生
事務局次長	泉谷 明宏
事務局次長	利見 晃二
総務管理課 課長	柴田 和廣

計4名

## 5. 研究スタッフに関する事項

### 研究スタッフ一覧

(令和5年3月31日現在)

研究顧問	菅野 久信 (医学博士)
研究部部长	片村 宏 (医師、医学博士)
研究部次長 主任研究員	木村 友昭 (博士 (医学) )
〃	内田 誠也 (博士 (工学) )
研究部課長 研究員	加藤孝太郎 (博士 (農学) )
研究部主任 研究員	田中 英明 (博士 (公衆衛生学) )
客員研究員	津田 康民 (博士 (理学) )
〃	深澤 大輔 (あん摩マッサージ指圧師)
〃	富嶋 謙之 (准看護師、メンタルヘルス心理カウンセラー、公認心理師)

計9名

## 6. 研究推進委員会および治験審査委員会に関する事項

令和4年度委員一覧

(令和5年3月31日現在)

役職	氏名	勤務先/役職
委員長	鈴木 清志	一般財団法人MOA健康科学センター 理事長
副委員長	片村 宏	医療法人財団玉川会 理事長
〃	内田 誠也	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
委員	長南 征二	東北大学 名誉教授
〃	木嶋 利男	伝統農法文化研究所 代表
〃	松尾 汎	医療法人松尾クリニック 理事長
〃	森岡 尚夫	医療法人財団玉川会 理事
〃	立川 豊吏	医療法人財団愛和会 理事長
〃	杉岡 良彦	一般財団法人信貴山病院分院上野病院 医師
〃	蝦名 玄大	医療法人財団瑞泉会 理事
〃	柴 維彦	医療法人財団玉川会 理事
〃	中島 宏平	一般社団法人MOAインターナショナル 理事長
〃	田淵 浩康	公益財団法人農業・環境・健康研究所 業務執行理事
〃	八木澤幸生	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局長
〃	木村 友昭	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
〃	加藤孝太郎	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部課長
〃	田中 英明	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部主任

計17名

## 7. 編集委員会に関する事項

令和4年度委員一覧

(令和5年3月31日現在)

役職	氏名	勤務先／役職
相談役	片村 宏	医療法人財団玉川会 理事長
委員長	木村 友昭	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
副委員長	内田 誠也	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
副委員長	加藤孝太郎	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部課長
委員	柴 維彦	医療法人財団玉川会 理事
〃	八木澤幸生	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局長
〃	泉谷 明宏	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局次長
〃	利見 晃二	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局次長
〃	田中 英明	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部主任

計9名



## 8. 倫理審査委員会（利益相反管理委員会兼任）に関する事項

令和4年度委員一覧

（令和5年3月31日現在）

役職	氏名	勤務先／役職
		（医学・医療の専門家、自然科学の有識者）
委員長	片村 宏	医療法人財団玉川会 理事長（医学博士、医師）
委員	蝦名 玄大	医療法人財団瑞泉会 理事（医師）
〃	有馬佐和子	医療法人財団玉川会MOA新高輪クリニック 看護師長（看護師）
副委員長	木村 友昭	一般財団法人MOA健康科学センター 理事（博士（医学））
委員	内田 誠也	一般財団法人MOA健康科学センター 理事（博士（工学））
〃	加藤孝太郎	一般財団法人MOA健康科学センター（博士（農学））
〃	田中 英明	一般財団法人MOA健康科学センター（博士（公衆衛生学））
		（倫理学・法律学の専門家、人文・社会科学の有識者）
副委員長	宇田川和也	宇田川和也法律事務所 所長（弁護士）
委員	佐田 喜朗	國學院大學大学院文学研究科（日本宗教学会会員）
〃	西 一嘉	翻訳家（博士（社会学））
〃	小野 努	東方之光教学祭事プロジェクト事務局
		（一般の立場）
委員	豊田 益代	管理栄養士
〃	田中千枝子	カウンセラー
〃	三井 淳子	一般（修士（工学））
〃	坂口 弘征	医療法人財団玉川会 事務長
〃	泉谷 明宏	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局次長

計16名

## 9. 理事会に関する事項

開催日	主な審議事項
令和4年6月4日 定例理事会	令和3年度事業報告案承認に関する件、令和3年度決算報告案承認に関する件、定時評議員会招集及び提出議案に関する件、その他
令和4年6月25日 理事会 (みなし決議)	代表理事、役付理事及び業務執行理事の選定の件、理事への使用人職務の委嘱の件
令和4年11月26日 理事会 (みなし決議)	理事の再雇用の件
令和5年3月18日 定例理事会	令和4年度収支補正予算書承認に関する件、令和5年度事業計画案承認に関する件、令和5年度予算案承認に関する件、倫理審査に関する規程の件、令和5年度顧問・委員・客員研究員の委嘱に関する件、その他

## 10. 評議員会に関する事項

開催日	主な審議事項
令和4年6月25日 定時評議員会	令和3年度事業報告の内容報告の件、令和3年度計算書類等の承認に関する件、理事、監事任期満了に伴う理事、監事選任に関する件、その他

## Ⅱ 事業の概要

### 1. 総括

本年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の蔓延によりコロナ対策による行動制限が継続され、さらには紛争の勃発、物価高騰など人々の社会経済状況に影響する新たな問題が噴出した。国内外で様々な問題が錯綜しており、安全で健やかな生活を目指す取組みが益々重要になっている。そのような中、本財団は「自然治癒力を生かす医学及び健康法」の普及を進める観点から、協力機関・団体と連携して、全人的医療や統合医療及び農医連携に関する調査研究活動並びに情報提供を進め、家庭や地域社会における健康づくりの推進に取り組んできた。

具体的には、全人的医療や統合医療として行われている心身の健康法、特に岡田式浄化療法をはじめとした岡田式健康法について、(一社)MOAインターナショナルや各医療機関と協力し調査研究に取り組んだ。中でも、本年度は食に関係する生活習慣の評価及び疾患との関連や、自律神経機能・肩こり評価・首尾一貫感覚(SOC)と岡田式健康法の関連についての調査研究を進めることができた。また、心的外傷後成長(PTG)に関する調査研究や東京療院と連携して行っている花を用いた療法の評価に関する研究などを新たに開始した。

そして、研究推進委員会の小委員会において研究内容の検討を行い、倫理審査委員会による審査を経て自主研究を軸とした調査研究の推進を図り、学会発表や学術誌での公表などを積極的に行った。

さらに、地域社会における健康づくり啓発運動として健康科学セミナーを実施し、全人的医療や統合医療及び農医連携に関する研究成果や健康づくり関連の情報を広く発信することに取り組んできた。これらの事業を通して、国民の健康づくり運動「健康日本21」(第二次)の推進に貢献するとともに地域に根ざした健康づくり活動の普及啓発につなげることができた。

加えて、健康度計測を積極的に実施することで、地域社会で生活する一人一人のライフスタイルの改善についてきめの細かい支援をするとともに、健康づくりに関する意識の向上を図ることができた。

以下、令和4年度の事業計画に基づき実施した事業活動の概要を報告する。

### 2. 調査研究事業

「心身ともに健康なまちづくり」に向けて、MOAインターナショナルとの連携強化と医療法人財団玉川会をはじめとした全国の医療法人財団及び地方行政・団体と連携し、岡田式健康法(浄化療法・食事法・美術文化法)をはじめとした統合医療の医療モデルや社会モデルに関する調査研究を実施した。

## (1) 東京療院との連携

東京療院で行われている各種健康法のエビデンスを得るためのデータ（岡田式浄化療法、運動、マッサージ、コントロール）の収集を行うとともに、岡田式健康法の実践と自律神経機能、肩こり度及び首尾一貫感覚（SOC）との関連性に関するデータの収集を行った。また、花を用いた療法に関する研究を開始するとともに、「岡田式浄化療法とマッサージの併用に関する研究」についてのまとめを行った。

## (2) MOAインターナショナルと連携した調査研究活動

### ① 「美味しいまちづくり」を推進するための食・農と健康に関する調査研究

#### 1) 腸内細菌叢に関する調査研究

異なる施肥条件で栽培されたニンジンの摂取がヒト腸内細菌叢に与える影響に関する研究において、ニンジン栽培の肥培管理の違いは、土壌細菌群集、ニンジン内生細菌群集、ヒト腸内細菌叢の発達などに影響を及ぼしていることがわかった。より詳細な情報を得るために、各サンプルの次世代シーケンス解析を委託した。

#### 2) 農医連携に関する調査研究

三島市市民農園利用者の主観的健康度の変化に関する調査研究へ協力を行った。

### ② 心的外傷後成長（PTG）に関する研究

心的外傷後成長（PTG）とスピリチュアリティ及び岡田式健康法をはじめとするライフスタイルとの関連について調査研究を実施した。

### ③ MOAの資格制度（浄化療法、食育、美術文化等）に貢献する調査研究及び情報の提供 食育推進チームと連携し、岡田式食事法で用いられているチャレンジシートについて研究を行い、その臨床的な妥当性の確認を行った。

### ④ MOA研究に関する検討チームとの連携

MOA研究に関する検討チームに協力（事務局）して、以下の審査7件を行った。

#### 1) 木村友昭（主任研究員）日本応用心理学会申請分

「障がい児の保護者における発達支援事業の満足度と療育効果— 広島県の通所型施設における予備的検討 —」

#### 2) 内田誠也（主任研究員）日本応用心理学会申請分

「縦断の分析による首尾一貫感覚と関連があるライフスタイル因子の探索について」

#### 3) 中川祥治（農業・環境・健康研究所研究員）日本健康心理学会申請分

「有機食品の飲食に伴う主観的な健康の変化」

#### 4) 内田誠也（主任研究員）日本統合医療学会申請分

「食事・運動・休養習慣質問紙（チャレンジシート）の評価値の妥当性の検討」

#### 5) 加藤孝太郎（農業・環境・健康研究所）：「有機農業研究」論文投稿申請分

「有機質資材および化成肥料を施用したキャベツ圃場から排出される温室効果ガスに

関する研究（1）「一施肥の違いが温室効果ガスの排出、土壌理化学性、収量に及ぼす影響の比較」

6) 加藤孝太郎（農業・環境・健康研究所）：「有機農業研究」論文投稿申請分

「有機質資材および化成肥料を施用したキャベツ圃場から排出される温室効果ガスに関する研究(2)―メタンおよび一酸化二窒素の排出に関わる細菌および古細菌群集の比較―」

7) 内田誠也（主任研究員）日本生理心理学会申請分

「首尾一貫感覚とライフスタイルとの関連について」

(3) 医療機関及び健康増進施設と連携した調査研究の推進

① 医療法人（玉川会、瑞泉会、光輪会、愛和会）との共同研究の充実

各医療法人のクリニック等の医療機関と連携し情報交換を行うとともに、医療機関が取り組む調査研究を支援した。中でも、光輪会鹿児島クリニックが取り組んだ免疫研究ではデータの分析及び論文作成を共同で行った。また、愛和会広島クリニック及び島根の児玉医院と行った共同研究ではデータの分析を支援した。

② 岡田式健康法による症例・事例の調査及び作成

玉川会金沢クリニックが実施した若年の末期がん患者への美術文化法によるスピリチュアルな態度の変化に関する症例の調査及び論文作成に協力した。

(4) 国内外の研究機関、行政機関及び各種団体等との連携

① 各研究機関、大学等との連携

1) 農業・環境・健康研究所との調査研究および人材教育の連携

自然農法大学校の授業科目として有機農産物と健康に関する講義を行った。研究成績検討会合を行い、研究の進捗状況と研究成果についての報告が行われた。

2) 広島大学医学部、日本大学国際関係学部、長崎県立大学などとの連携

a. 広島市内の介護施設、広島大学及び長崎県立大学との共同研究

「障がい児の保護者におけるQOL、児童発達支援事業に対する満足度、および療育効果との関連の検討」の結果を取りまとめた。

b. 日本大学国際関係学部との共同研究

PTGと宗教的特性スピリチュアリティに関する研究を実施した。

② 行政機関、各種団体等との連携

1) タイ国文科省、タイ国ダムナンサドゥアック市立病院の協定に基づく共同調査研究および連携

タイ国文科省及びタイ国ダムナンサドゥアック市立病院との共同研究を継続した。

2) 長野県阿南町富草診療所の研究支援

長野県阿南町「富草へき地診療所」及びMOAインターナショナルと協同して、引き続き岡田式浄化療法の調査研究を進める計画をしていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響

により研究を進めることができなかった。

### 3) その他の行政機関、各種団体等との連携

#### a. 学会との連携

鈴木清志理事長（日本統合医療学会理事長補佐・国際委員会委員長）、木村友昭理事（日本応用心理学会常任理事・学会賞選考委員会委員長）、内田誠也理事（日本生理心理学会評議員）及び加藤孝太郎研究部課長（日本有機農業学会研究活動委員）は、各人が所属する学会において役職を担い貢献してきた。

#### b. 各種団体との連携

「信仰をもつ医療者の連帯のための会」及び「いのちの研究会」の開催に伴う運営等の協力を行った。

### (5) 研究推進委員会、倫理審査委員会による研究体制の充実

#### ① 内部研究委員会について

内部研究小委員会を6回開催し、今後の研究のあり方と方向性の検討を進めた。具体的には、症例作成（福井県、石川県等）、臨床研究（東京療院、南九州療院、名古屋療院、広島療院等）、統合医療の医療モデルと社会モデル及び感染症対策などの検討を行った。

#### ② 倫理審査と利益相反の管理に基づく研究の充実

##### 1) 倫理審査の実施

倫理審査委員会では、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づき、10件の倫理審査申請に対して、新規の迅速審査4件、計画変更の迅速審査4件、計画変更の報告事項での受理2件の審査を実施した。（迅速審査4件を以下に示す。）

##### a. 申請者：田中英明（研究員）

「心的外傷後成長（PTG）と宗教的特性スピリチュアリティの関連についての研究（つらい出来事に出会った後の心の持ち方についての研究）」

##### b. 申請者：中川祥治（農業・環境・健康研究所 研究員）

「有機栽培に特化した技術指導付き市民農園が利用者の主観的な健康に及ぼす影響」

##### c. 申請者：田中千枝子（一般社団法人MOAインターナショナル カウンセラー）

「花を用いた療法によっていけられた作品の画像の評価法に関する研究」

##### d. 申請者：柴 維彦（医療法人財団玉川会エムオーエー名古屋クリニック 院長）

「簡易的な半没入型VRを用いた当クリニック外来待合での癒しについての研究」

また、利益相反管理委員会では、役員や研究責任者のCOI管理を適宜実施した。

##### 2) 倫理審査に関わる規程の改定

国の倫理指針が、令和3年の改定に続いて令和4年3月に一部改正された。今後国の指針が改定された場合に対処すべく、本財団の倫理規程の内容を国の倫理指針に準拠すると規定することで、その都度改定の必要がない新たな規程案を作成し、令和5年3月

18日の理事会において決議の上、施行された。従前の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する規程」及び「倫理審査委員会規程」は廃止となった。新規規程は、厚生労働省の「倫理審査委員会報告システム」に登録を行った。

### 3) 倫理審査委員会の充実

令和5年3月18日の理事会において、審査体制の充実を図るため、「一般の立場」の委員を1名増員した。

## (6) 新規研究に関する情報収集、人的交流及び研究人材の育成

鈴木理事長が、統合医療研究の推進のために、東京療院において統合医療議員連盟との懇談、南さつま市市長との懇談を行い、情報収集および人的交流を行った。また、片村常務理事及び研究関係者が的場教授（ヴィッテンヘルデッケ大学）と懇談し、同大学におけるアートセラピーの研究及び集団トラウマの研究に関して情報収集を行った。

## 3. 普及、広報活動の充実

「心身ともに健康なまちづくり」の推進に向けて、岡田式健康法の研究成果を分かりやすく社会に紹介する資料の作成やインターネットを活用した情報の発信を積極的に行った。また健康づくり啓発のために健康チェックの充実に努めた。

### (1) 東京療院を中心とした普及広報の支援

東京療院で健康チェックを99回実施し、874名（前年度比82%増）を受け入れ、181,370円（前年度比35%増）の寄付金をいただいた。東京療院のまるごと充実コースと連携、自然食品店グリーンマーケットやレストラン榊の木、レストラン旬の利用者に新規チラシを配布することで、新しい顧客や健康チェックのリピーターが増えたり、また利用者の中には健康法の資格の習得を目指す事例も見られた。

### (2) 「これからの医療とまちづくりシンポジウム」（地方開催）の支援

#### ① これからの医療とまちづくりシンポジウム in 新潟（主催）

##### 1) 概要

開催日時 令和4年11月6日（日）

会場 新潟日報メディアシップ 日報ホール

リモート会場 3会場

名称 これからの医療とまちづくりシンポジウム In 新潟

主催 一般財団法人 MOA健康科学センター

一般社団法人 MOAインターナショナル

MOA自然農法新潟県普及会連合会

後援 新潟県、新潟市、佐渡市、佐渡汽船株式会社、新潟（日报社・各テレビ）  
新潟市傾聴ボランティアこころ

参加者 203名（新潟日報メディアシップ会場125名、リモート会場78名）

## 2) 内容

【第一部】基調講演 エムオーエー奥熱海クリニック院長 佐久間哲也

【第二部】パネルディスカッション

コーディネーター 新潟県病院局長 山崎 理

佐渡市農林水産部副部長 中川克典

MOA食育アドバイザー 藤塚正子

MOA美術文化インストラクター 高島美佐子

新潟市議会議員 皆川英二

## ② 第2回「美味しいまちづくり」シンポジウム in ちば（後援）

### 1) 概要

開催日時 令和4年8月28日（日）

会場 モリシア津田沼多目的ホール・MOA津田沼会館（ZOOM）

名称 第2回「美味しいまちづくり」シンポジウム in ちば

主催 美味しいまちづくりシンポジウム in ちば実行委員会  
MOA食育ネットワーク千葉

共催 明るい社会をつくる会千葉県支部  
一般社団法人MOA自然農法文化事業団千葉県連合会

後援 千葉県、習志野市、木更津市、富里市、千葉市、佐倉市、いすみ市  
船橋市、市川市、四街道市、市原市、大網里市、八街市、  
一般財団法人MOA健康科学センター

参加者 115名（モリシア会場75名、MOA会場40名）

### 2) 内容

【第一部】基調講演 農林水産省農業環境対策課課長 佐藤夏人

【第二部】パネルディスカッション

コーディネーター 押田じゅんこ

木更津市企画部オーガニックシティ推進課課長 野村洋貴

きさらづ健康ひろば 石原輝子

MOA自然農法成田普及会 山下慶明

MOAイキイキワクワク健康生活ネットワーク富里 市原末子

## (3) 研究成果の公表

### ① 編集委員会による研究報告集第26巻の発刊

編集委員会を開催し、研究報告集第26巻を令和5年2月4日に発刊した。本巻の掲載論文は5報（「研究報告」2報、「実践・事例報告」1報、「転載」2報）であった。



1) 研究報告

a. 「高齢者の認知機能における各種評価方法の比較検討」

木村友昭、堀島由利、烏帽子田彰

b. 「食事・運動・休養習慣調査票（チャレンジシート）の妥当性の検討」

内田誠也、田中英明、小菅豊弘、柴 維彦

2) 実践・事例報告

a. 「若年の末期がん患者におけるスピリチュアルな態度の変化

—文化や芸術を取り入れたケアに取り組む作業療法士の視点から—

中西好子、森岡尚夫、黒澤由貴子、三宅真矢

3) 転載

a. 【原著】「東洋と西洋の医療従事者のスピリチュアリティ、宗教性、及びスピリチュアルケアに対する認識の比較」 田中英明、木村友昭、内田誠也、鈴木清志

b. 【報告】「首尾一貫感覚（SOC）と食事に対する認識との関連—健康チェック参加者の質問調査より—」 内田誠也、柴 維彦、田中英明

② 各種専門学会への発表

1) 第40回日本生理心理学会大会（関西学院大学、5月28日～29日）

発表者：内田誠也（業務執行理事、主任研究員）

タイトル：心拍変動と肩の筋硬度を併用した自覚ストレス度の評価

2) 日本土壌微生物学会2022年度大会（オンライン開催、6月18日～19日）

発表者：加藤孝太郎（研究部課長、研究員）

タイトル：有機農業および慣行農法で肥培管理されたニンジン圃場の土壌細菌およびニンジン根部常在細菌集の年次変化

3) 第63回日本心身医学会総会ならびに学術講演会（幕張メッセ、6月25日～26日）

発表者：内田誠也（業務執行理事、主任研究員）

タイトル：重回帰分析を用いた首尾一貫感覚と関連がある生活習慣の分析

4) 日本応用心理学会第88回大会（京都繊維工芸大学、9月17日～18日）

a. 発表者：内田誠也（業務執行理事、主任研究員）

タイトル：首尾一貫感覚と関連があるライフスタイル因子の探索について

b. 発表者：木村友昭（業務執行理事、主任研究員）

タイトル：障がい児の保護者における発達支援事業の満足度と療育効果 —広島県の通所型施設における予備的検討—

5) 第26回日本統合医療学会（オンライン開催、12月17日～18日）

発表者：内田誠也（業務執行理事、主任研究員）

タイトル：食事・運動・休養習慣質問紙（チャレンジシート）の評価値の妥当性の検討

### ③ 専門誌への投稿（医学系、科学系等）

#### 1) 報告論文

「岡田式浄化療法施術後の末梢血 PD-1 発現 CD<sup>+</sup> 8T 細胞、QOL、およびスピリチュアリティの変化」（日本統合医療学会誌 15 巻 2 号、pp. 87-91）江副健一, 赤木純児, 牧美輝, 木村友昭

#### 2) 著書

a. 「第 9 章健康と応用心理学：総説」（日本応用心理学ハンドブック, 福村出版, pp. 416-421）木村友昭

b. 「第 9 章健康と応用心理学：肩こりとリラクゼーション」（日本応用心理学ハンドブック, 福村出版, pp. 446-447）内田誠也

c. 「第 9 章健康と応用心理学：相補代替医療：統合医療」（日本応用心理学ハンドブック, 福村出版, pp. 458-459）田中英明

### (4) 広報資料の充実

#### ① 会員誌と資料（冊子、DVD等）による情報提供

##### 1) 会員誌「21 世紀の健康科学」63 号の発刊

研究報告集第 26 巻のダイジェスト及び研究報告を掲載した会員誌「21 世紀の健康科学」第 63 号を発刊し、賛助会員・団体に情報の提供を行った。

##### 2) 会員向けの資料(ニューズレター「すこやかだより」)の発行

健康チェックのリピーターが岡田式健康法を通して改善した体験談（頰椎症性筋萎縮症の改善事例）を紹介した「ニューズレターNo. 2」、および心的外傷後成長の研究を紹介した「ニューズレターNo. 3」を発刊することができた。

##### 3) MOA インターナショナル発行の情報誌との連携

鈴木清志理事長が、MOA ニューズレターに「岡田式健康法を科学する」を 7 回にわたり連載をした。

##### 4) 講演会・セミナーや研究紹介の資料（冊子、DVD等）の作成と活用

各種テーマで研究員が行ったセミナーの DVD を 145 枚頒布した。

#### ② インターネット配信の検討・充実

##### 1) ホームページの更新と充実（MOA 関連団体との連携を図る）

本財団の事業・活動に関する情報、健康チェックに関連する情報、研究成果等に関して定期的に更新することで、普及広報活動の情報発信に取り組んだ。1 年間で 4,368 ユーザーがホームページを閲覧した。

##### 2) YouTube 及び SNS の更新と充実

YouTube で研究者による講演・セミナー等の動画を配信した。1 年間のチャンネル登録者数は 86 名、総視聴回数は 2,059 回であり、岡田式健康法の有効性を広報できた。ま

た、LINE 公式アカウントによる健康チェックの広報活動も行った。3月時点での登録者数は336名である。健康チェックのスケジュール情報の発信及びポイント付与などのサービスを行った。

### 3) 研究報告集の電子ジャーナルによる発信

当財団ホームページ上に研究報告集第26巻の論文のPDFファイルを掲載した。

#### ③ 研究報告集（論文）および会員誌の外部団体・機関の図書館等への登録（送付）

### (5) 講演会、研究会、セミナー、健康度測定の実施

全国各地の健康関連行事において、MOAインターナショナルと連携し、健康科学セミナーや健康チェックを行うなど、地域社会における健康づくり啓発活動に取り組んだ。今年度は、健康科学セミナーを15件、健康チェックを8件実施し、聴講者や体験者からは「健康づくりにとても参考になった」などの声が寄せられ、ライフスタイルの改善に向けて健康意識の向上を図ることができた。

代表的なセミナーを以下に示す。

#### 【健康科学セミナー】15件 2,300名

- ①「健康増進フェスタ」(沼津市) 4月17日 内田誠也主任研究員
- ②「鹿児島県MOA自然農法連合会および統合医療推進県議連の合同研修会」(鹿児島市) 6月9日 加藤孝太郎研究員
- ③「天城湯ヶ島地域づくり協議会」(伊豆市) 7月23日 加藤孝太郎研究員
- ④「光輪祭セミナー」(箱根町) 8月1日 田中英明研究員
- ⑤「ヒーローアカデミー」(熱海市) 8月7日 加藤孝太郎研究員
- ⑥「大仁瑞泉郷まつり」(伊豆の国市) 11月13日 加藤孝太郎研究員
- ⑦「神奈川歯科大学大学院統合医療講座」(港区) 11月25日 加藤孝太郎研究員
- ⑧「MOA食育ネットワーク千葉ハピネスクラブ健康セミナー」(市川市) 11月27日 内田誠也主任研究委員
- ⑨「宮城県議員の会」(仙台市) 11月30日 鈴木清志理事長

他6件

#### 【健康チェック】8回 330名

- ①沼津市1回(4月17日) 40名
- ②東京療院3回(7月26日/7月29日/10月12日) 28名
- ③名古屋市1回(9月17日) 34名
- ④市川市2回(11月3日/11月27日) 135名
- ⑤伊豆の国市1回(11月13日) 93名

#### 4. 事業基盤の充実と拡大

##### (1) 賛助会員

賛助会員登録数は、団体会員 20 団体、個人会員 1,789 名（令和 5 年 3 月末現在）である。特に本年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から健康増進セミナーや健康度測定の中止を余儀なくされ、広報活動の自粛から会員数は昨年度と比較し減少傾向となった。

そのような状況の中にはあるが健康情報誌の作成（ニュースレター）やチラシの配布等を通して積極的に賛助会員入会の案内を進め、新規に法人会員団体 5 団体及び個人会員 49 名の入会を得ることができた。

##### (2) 寄付金収入

地域のシンポジウムや講演会、DVDの頒布、ホームページ等を通して研究成果を広く伝え、統合医療の有効性を訴えていくことにより、財団運営・活動へのご支援を積極的にお願ひしてきた。本年度は、賛助会員や関係者及び各団体をはじめ一般の方々から、年間で約 40 万円の真心こもる寄付金をいただくことができた。

以 上